医学部における情報インフラ・ストラクチャの現状と今後

医学部　藤原　敏

1　医学部における情報インフラ・ストラクチュアの現状

1) 施設，機器等の現状

(1) 医学部内施設

1. 施設

医学部情報センターが設置されており，専用のスペースが用意されている。

2. 機器

センターには以下の機器が設備されている。

a) ハード

N6950	NEC(ACOS)
N6950N	NEC(スプール)
4105	テクトロ (ACOS)
4695	テクトロカラーハードコピー
PC−98	NEC　8 台
シリアルプリンター	NEC201
ページプリンター	NEC602PS,　ポストスクリプト対応 (B4)
ページプリンター	NEC3000PS
X−Y プロッター	ローランド　DXY−980
イメージスキャナ	シャープ　JX−200(A4)

等

b) ソフト

MS-DOS	Ver3.3
一太郎	Ver3,　Ver4
MIFES	Ver5.0
WORDSTAR	Ver6.0

等

3. スタッフ

専属のスタッフは僅か一人（事務官）である。

4. 運営

a)運営

運営委員会（委員は各講座等から各々一名づつ選出）により運営されている。

b)年間予算

約 50 万円と少額であり、消耗品購入が限界である。

(2) 医学部と総合情報処理センターとの関係における設備

通信回線にて医学部情報センターのミニコンピュータを介して、医学部情報センター、各講座研究室，事務部門及び神戸大学附属図書館医学部分館に設置されている各端末が総合情報処理センターの ACOS に接続されており、昭和 63 年 10 月から ACOS の利用が開始されている。

但し，端末としては NEC 等の一部の機器に限られており、医学部で比較的使用頻度の高い Machintosh は接続不可の状態にある。

2) 施設利用の現状

(1) 医学部情報センターの利用

総合情報処理センターの ACOS への中継施設としての使用の他、各パーソナルコンコンピュータを単体として比較的簡単な解析のために使用したり，あるいは、ワープロとしての使用が行われている。但し、全体的にみた利用頻度は比較的低いのが実状である。

(2) 総合情報処理センターの利用

総合情報処理センターの ACOS の利用は事務部門や附属図書館医学部分館における利用は別として、研究面及び教育面での利用は一部の研究者や講座に限られており、医学部全体としての利用頻度は非常に低いのが現状である。

(3) 医学部情報センター及び総合情報処理センターの施設利用の頻度が低い理由

- 大部分の研究者においては他学部と比較して、計算量がそれほど膨大ではなく、またそれほど高度の解析を必要としないため、講座に設置あるいは個人が所有しているパーソナルコンピュータ（NEC，Machintosh 等）で十分にその目的を達成できるのが現状である。

- 機械に不慣れな研究者が比較的多く、総合情報処理センターの ACOS を十分に使いこなしきれない。なお、年に 1–2 回総合情報処理センター主催の講習会が開催されているが、全て六甲台において開催されるために、医学部の立地条件から参加は殆ど不可能である。また、過去に医学部において総合情報処理センターから講演者を呼んで講習会を開催したことがあるが、殆どの研究者から関心を持たれなかった。

- 医学部の立地条件として、総合情報処理センターの施設から遠く離れているために各研究者の関心が薄く、また利用に不便がある。

- 通信回線にて医学部に設置されている端末を用いて総合情報処理センターのACOSを利用することは可能であるが、実際に使用している際に何らかのトラブル（機器使用並びにプログラム等に関する種々のトラブル）に遭遇した場合にすぐに、また気軽に相談して指導を受けることのできる専門家が全く身近にいないのが現状である。

2　医学部における情報インフラ・ストラクチュアの今後

1) 医学部情報センターにおける今後

- 予算，施設，機器及びスタッフ（特にプログラム相談員等の機器使用方法や種々のトラブル発生時に相談し、指導を受けることのできるスタッフ）等を更に一層充実させ、施設利用の条件整備を行う。

- 機器使用等の講習会の開催、ニュース（どのような機器が用意されていて、どのような情報処理が可能であるか等についての）の発行等を積極的に行って、施設の啓蒙に努めまたその利用を活性化させる。

2) 総合情報処理センターと医学部情報センターとの関係に関する今後

総合情報処理センターから発行されているセンターニュースは当該施設を実際に利用している各研究者個人宛に送られてくるために、実際に施設を利用していない医学部の研究者の殆どは総合情報処理センターからの情報を全く知らないのが現状である。今後は医学部情報センターなどが間に立って、総合情報処理センターからのセンターニュースがもれなく医学部の全研究者に伝わるように機構改革に努める必要がある。

また、現在総合情報処理センターにおいてのみ開催されている講習会を医学部においても開催できるように検討していく必要がある。

3) 神戸大学附属図書館分館の改築に関しての今後

医学部情報センターは医学部分館との施設的 (建物、施設、機器等) 及び機能的融和を要望しているが、分館側では独自の改築案を検討しており、現在医学部情報センターは分館改築から取り残された形になっている。

現在は医学部分館及び事務部門に設置されている端末は医学部情報センターのミニコンピュータを介して、総合情報処理センターのACOSに接続されているが、分館改築案によるとこれらの端末は今後直接分館を経由して総合情報処理センターのACOSに接続されることとなり、医学部情報センターの存在意義が半減する形になる危険がある。

そのため、今後分館の改築と医学部情報センターの改築とがお互いに融和して進められていくように積極的に検討していく必要がある。

以上に関連するが、既に平成３年８月に医学部情報センター運営委員会ワーキンググループにより、別添「医学部情報センターの将来構想について」検討した結果の報告書を、医学部情報センター長から医学部長宛に提出済みである (次稿の「医学部情報センターの将来構想について」を参照)。